

バイデン下のアメリカ資本主義の歴史的位相——パックス・アメリカナ段階の変質局面の視点から

法政大学教授
河村 哲二

はじめに 大統領選挙にみるアメリカの社会的分断

★ グローバル資本主義の進展によるアメリカ社会の分断の位相

I パックス・アメリカナ段階の変質局面 Phase1

★戦後パックス・アメリカナの衰退と転換：グローバル資本主義化

(1) 「グローバル成長連関」の出現

★ 「グローバル成長連関」

(2) グローバル金融危機・経済危機とそのインパクト

¥ ¥パックス・アメリカナ段階の変質局面 Phase1 の帰結

★ グローバル金融危機・経済危機の衝撃

★ パックス・アメリカナ段階の変質局面 Phase 2 への展開

<補論> グローバル恐慌としてのグローバル金融危機・経済危機とその歴史的位相

II パックス・アメリカナ段階の変質局面 Phase2 現状と展望

★アメリカが直面するジレンマ（総括）：

—パックス・アメリカナ段階の変質局面 Phase 2 におけるアメリカの課題

1 グローバル金融危機・経済危機によるアメリカのジレンマ

(1) オバマ政権

(2) トランプ現象とその背景

2 トランプ政策の特徴と限界

3 バイデン政権

※ グローバル・フレームワークの変質への展望（要点）

<補論1> グローバル金融危機と中国の経済発展モデルの転換—新たな挑戦の現状と課題

—パックス・アメリカナ段階の変質局面 Phase2 の焦点：「双循環」と「一帯一路」

1 初期：1970～80年代 「太平洋トライアングル構造」の出現

(1) 「太平洋トライアングル構造」の出現

(2) 「太平洋トライアングル構造の深化」と中国 1980年代末～1990年代

2 第2の局面：1990年代～

—グローバル化の進展とアメリカを軸とする「グローバル成長連関」の出現（およびその不安定性）

★ 第2の局面までの中国経済

—グローバル経済のもとでの「改革開放」・市場経済化の大きな進展

(1) 経済システムの改革・開放と市場経済化の進展

(2) 従来型発展モデルの限界

—外資依存型輸出指向型工業化・経済発展モデルの各種の限界

★ 解決すべき課題・問題

・「改革開放」・市場経済化と急速な工業化・経済発展に伴う社会経済、政治問題の拡大

・中・長期的課題

(3) グローバル金融危機による国際的フレームワークの転換と中国経済の新たな課題

—アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機

★ 中国経済へのインパクト

★ 中国政府の緊急対策

3 第3の局面：2000年代末～

—グローバル金融危機・経済危機後の成長フレームワークの転換

(1) 「グローバル・シティ」的都市領域と都市間ネットワークの発展戦略

—都市再開発戦略と「高技術開発区」の新しい意義

★ 中国の主要「城市化」領域とそのネットワーク（第12次5ヵ年計画）

★ 中国の国家高速道路・高速鉄道網

<補足> 第12次5ヵ年計画の概容

<補足2> グローバル・シティ」的都市領域とそのネットワーク（現地調査結果から）

4 パックス・アメリカナ覇権への中国の挑戦とその限界

・習近平政権の中国の経済覇権戦略：「中国製造2025」（2015年5月）

・「一帯一路」⇒中国による広域経済圏の追求

★ 「一帯一路」・人民元決済圏形成の限界

<論点>： 中国の「挑戦」とパックス・アメリカナの変質への展望：歴史的比較の視点から

◆ 歴史的比較： 戦後東西冷戦との比較もあるが、資本主義市場経済の枠内での展開という意味では、以下3点がポイント：

1) 19世紀末～第一次大戦のパックス・ブリタニカ段階の変質局面との類似性と相違

——とくにドイツの帝国主義的台頭とマルク決済圏の拡大の問題（Cf. 佐美光彦『国際通貨体制』東京大学出版会、1976年など）

2) 1920年代の「ポンド・ドル体制」との比較——ポンド決済圏とドル決済圏の併存（Cf. W. A. Brown, Jr, *International Gold Standard Reinterpreted, 1914-34, N.B.E.R., 1940*、佐美光彦『世界大恐慌』御茶の水書房、1994年など）

3) 1930年代ブロック経済との類似性と相違

——「スターリング・ブロック」およびナチス広域経済圏・マルクブロックの問題

——段階移行の問題としては、1)は第一次大戦、2)は世界大恐慌、3)は第二次大戦に帰結

～いずれも歴史的には二度の世界大戦を経て、パックス・ブリタニカ段階から、パックス・アメリカナ段階に転換

<補論2> 新型コロナウイルス(COVID19)・グローバル・パンデミックのインパクト

——パックス・アメリカナ段階変質局面 Phase2 とグローバル資本主義の変容

1 新型コロナウイルス・グローバルパンデミックの現状とインパクト

——「百年に一度」・「世界大恐慌以来最悪」の再度の大幅な経済的落ち込み⇒「グローバル成長連関」の崩壊の危機：実体経済そのもの大幅な減退⇒金融危機（の可能性）

⇒ グローバル金融危機・経済危機とは逆の経路で「グローバル成長連関」そのものを大きく毀損

★ 戦後「パックス・アメリカナシステムの変容と転換」によるグローバル資本主義の展開⇒「グローバル成長連関」の出現という文脈：

・グローバル資本主義の展開によって出現した「グローバル成長連関」＝グローバルな規模の新たな資本蓄積体制への実体経済的直撃

⇒ 「グローバル恐慌」と同様に「パックス・アメリカナ段階」の「変質局面」の特徴的事態として「段階論」により解明すべき課題

2 新型コロナウイルス・グローバルパンデミックの歴史的位相

——グローバル資本主義とその変容

(1) 新型コロナウイルス・グローバルパンデミック問題と現代資本主義

★ 「グローバル資本主義」の世界的な資本蓄積の枠組み＝「グローバル成長連関」への影響と転換の可能性

(2) 新型コロナウイルス・グローバルパンデミックによるグローバル資本主義の変容

——大規模な制度転換？ 3. 近代国民国家・国民経済の再編と転換の分析視角

—社会構成の基本ロジックと「ハイブリダイゼーション」ダイナミクス」の視点から

(1) アンソニー・ギデンズ：ヨーロッパ近代社会の制度的特徴：

(2) 近代国民国家・社会の特性＝「型」の代替的枠組み

（おわり）